

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年12月11日

Lancet: 新型コロナパンデミック中の心臓病治療の遅れ：システマティックレビュー。ヨーロッパ

【松崎雑感】

コロナパンデミックの状況で、平時なら助かるはずの心臓病の方の死亡率が2割前後増加したという報告です。ロックダウンが行われた状況にもかかわらず、「この程度」の死亡率増加で済んだのは、ある意味僥倖と言えるかもしれません。しかし、次のパンデミックだけでなく、パレスチナの戦乱の現状をみると、戦争での直接の犠牲者もさることながら、コラテラル（戦乱の間接的影響）の犠牲者が激増することが大きく懸念されます。感染症そのものよりも、ヒトが引き起こす戦乱を防ぐことが、私たち医療ケアを行う人々が目指すべき第一のエンドポイントだと思います。

新型コロナパンデミック中の心臓病治療の遅れ：システマティックレビュー。ヨーロッパ

Khan Y, Verhaeghe N, Devleeschauwer B, et al. **Impact of the COVID-19 pandemic on delayed care of cardiovascular diseases in Europe: a systematic review.** *Lancet.* 2023;402 Suppl 1:S61. doi:10.1016/S0140-6736(23)02117-7

背景

心臓病は世界全体で最大の死亡原因となっている。新型コロナパンデミックは医療ケアシステムのひっ迫をもたらし、心臓病治療などの基本的医療ケアが先送りされた。ヨーロッパにおけるコロナパンデミックの影響を評価した。

方法

2019年11月1日から翌年9月18日に発表された心臓病治療の遅れに関する研究論文をシステマティックにレビューした。複数の研究者が独立に評価した。評価対象患者数は350万名。2020年3月以前とその後のコロナパンデミックの間で、入院数、死亡率、コロナ発症に起因した受診の遅れ、治療開始の遅れ、治療介入件数などを比較した。

結果

評価対象とした132研究（20%がイギリスデータ）はすべて観察研究あるいは後顧的研究であり、87%が感染第一波時のものである。

虚血性心疾患、脳卒中、心臓突然死、心不全などの病態別に解析を行った。

パンデミック中の入院数の減少率は、虚血性心疾患で12～66%、脳卒中で9～40%、心不全で9～66%、緊急および待機的心臓病治療で27～88%だった。

心臓突然死増加率は11～56%だった。

パンデミック中の虚血性心疾患死亡率は1～25%で、パンデミック前よりも16～22%有意に増加していた。

パンデミック中の脳卒中死亡率は8～70%で、パンデミック前よりも8～26%増加していた。研究の質が低いと判定された論文は1件にとどまった。

考案

コロナパンデミックは、心臓血管疾患の入院を減らし、死亡率を増加させた。

受診の遅れが生じ、緊急および待機的心臓病治療数も減少していた。

医療ケアが危機的状況になった場合に、どのように医療資源を供給するかについて、明確なガイドラインを準備しておくことがポリシーメーカーとヘルスケアシステムに対して強く要請される。

具体的には、受診および治療の遅れを防ぐこと、そして平時から健康的なライフスタイルを推進する活動が必要である。

今後、今回のパンデミックがもたらした心臓病ケアの遅れが健康寿命と医療経済にもたらす影響の検討が必要である。